

前回までのサマリー



2007.3.22

放送グループ代表

第1回放送アドホックの検討状況

- 多チャンネル放送に対するユーザーニーズについて、実施時期や実施方法が異なる3種類の調査結果が示され、どの結果についても、ユーザー1人あたり20～30種類の番組ニーズがあることが分かった。
- 移動体・携帯端末への放送サービスであることから、よりパーソナリ化、多様化のニーズがあること、また、多数のユーザーに同時にサービスする放送形態を考慮すると、放送全体として100種類のニーズがあると考えられる。
- また、放送の公共性から災害報道へのニーズは必須であり、地域放送の実施は不可欠である。地域放送を実施するためには、隣接地域での干渉を排除するため、より多くの周波数が必要となる。
- 審議の結果、多彩な情報の提供に向け、編成・技術・運用上工夫を凝らすことにより、ユーザーの利便性を損なうことなく、可能な限り必要周波数を削減し、放送アドホックとしては、35MHzの帯域幅（但しガードバンドを内側に含む）を提案することが承認された。

今後の課題



- 周波数位置を確定するためのガードバンドについての検討。
 - ◆ 第1回VHF帯共用検討グループ会合において放送グループとしての考え方について説明を行い、基本的に了解を得た。
 - ◆ 自営通信グループにおいてブロードバンド系・ナローバンド系への集約を図り、ガードバンドに関する検討を行うためのそれぞれのモデル化を実施することとなった。
- 具体的なサービスラインナップ、および事業性の検討。
 - ◆ 本日の主要議題